

普通期水稻稚苗育苗管理

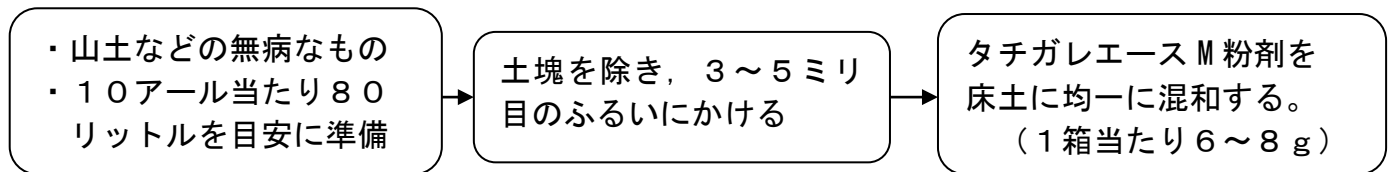
技連会

(令和2年4月作成)

1 作業行程

作業開始からの日数 (日目)																			
1	2				7				11				17					27	28~30
塩種 水子選		浸種			は種		出芽			緑化			硬化			移植			
温度管理 (出芽以降)		昼間		28~30℃			20~25℃			15~20℃									
		夜間		"			15~18℃			13~15℃									

2 床土の準備 (自家製の床土を準備する場合のみ)



3 育苗箱の準備

前年使用した箱はよく水洗いをし、消毒しておく。(イチバン 500~1000倍)
10アール当たり20箱を目安に準備する。

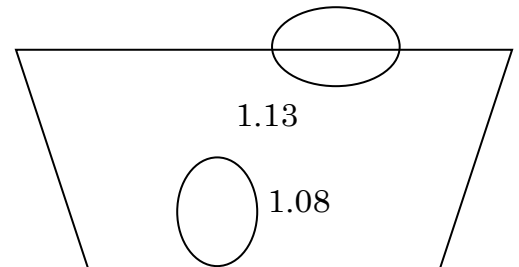
4 塩水選

比重液に沈んだ充実したものを種子に利用する。
塩水選の比重液の作り方

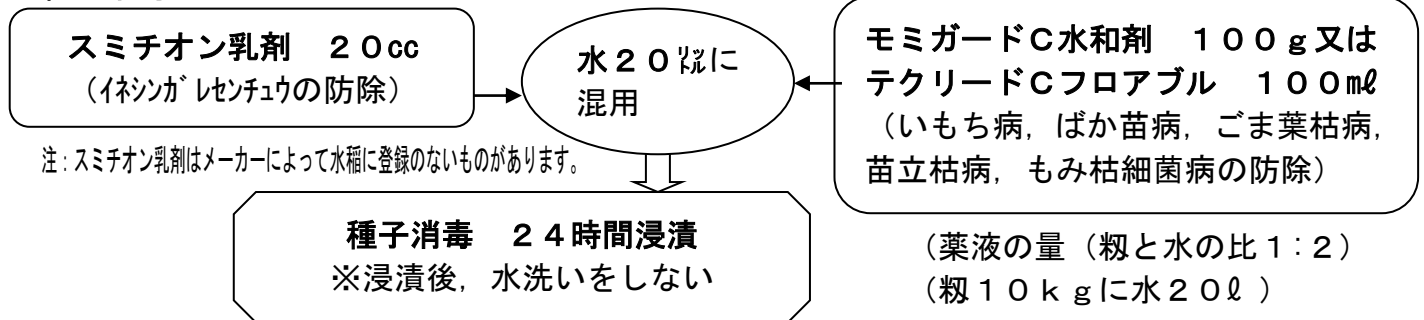
種類	比重	水10ℓに混ぜる量 (kg)	
		食塩の場合	硫酸の場合
うるち	1.13	2.1	3.0
もち	1.08	1.3	1.7

※ 塩水選後は種子を十分に水洗いする。

※卵を水に浮かべた比重液の判定法



5 種子消毒

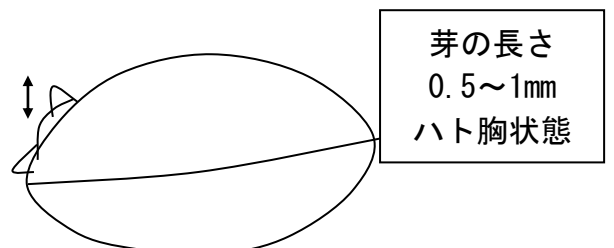


6 浸種

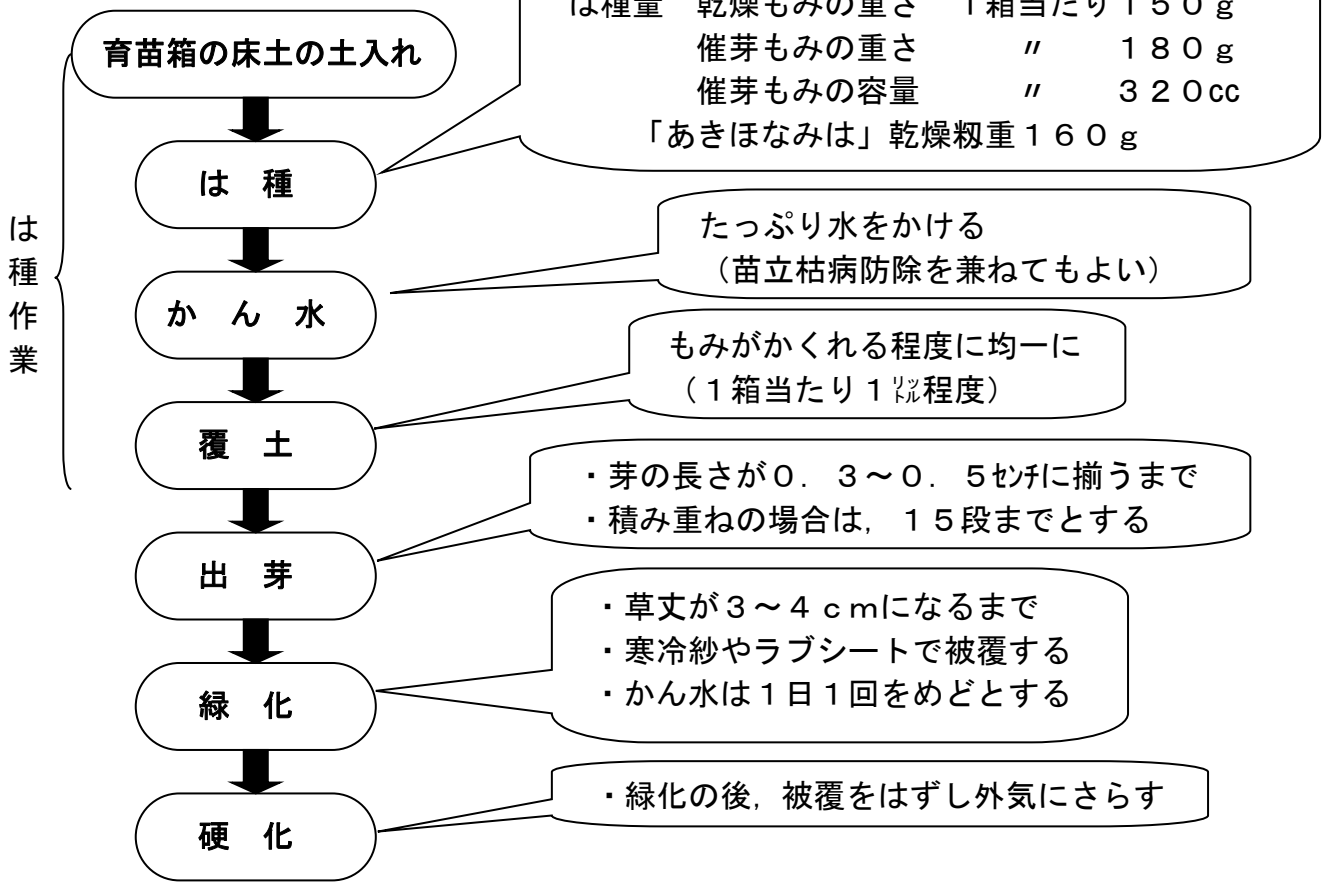
芽揃いを良くするために全体の8割程度がハト胸状態まで水に漬ける。

期間: 積算温度で100~110℃

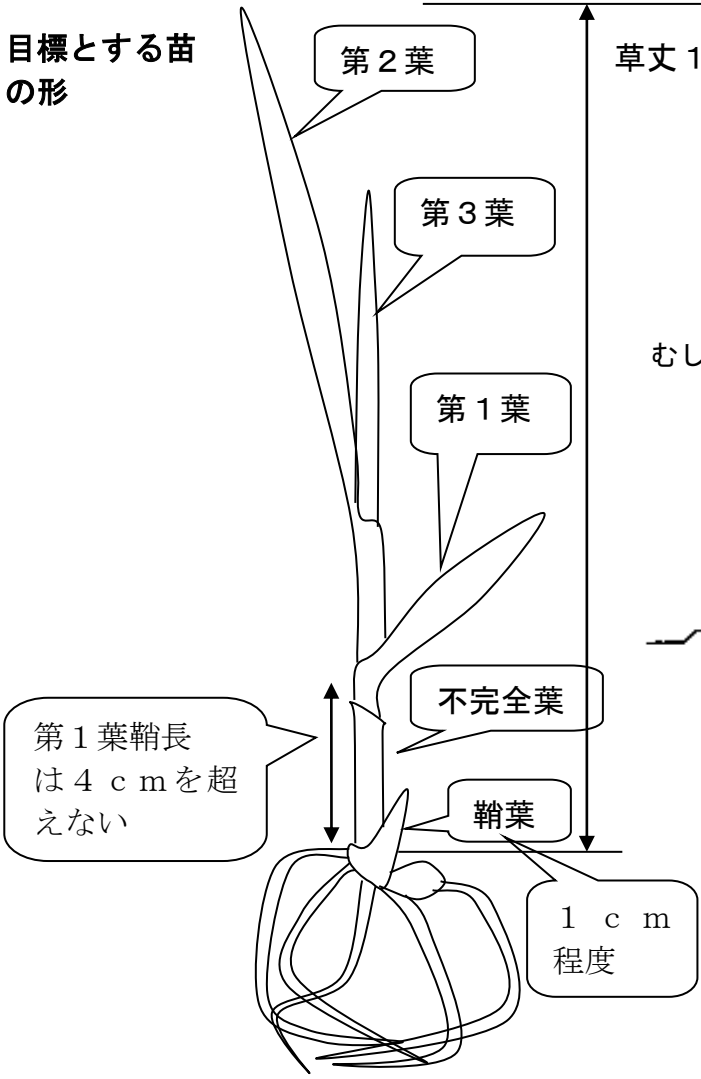
(水温15℃の場合7日間, 20℃の場合5日間)



7 は種作業～出芽～緑化～硬化

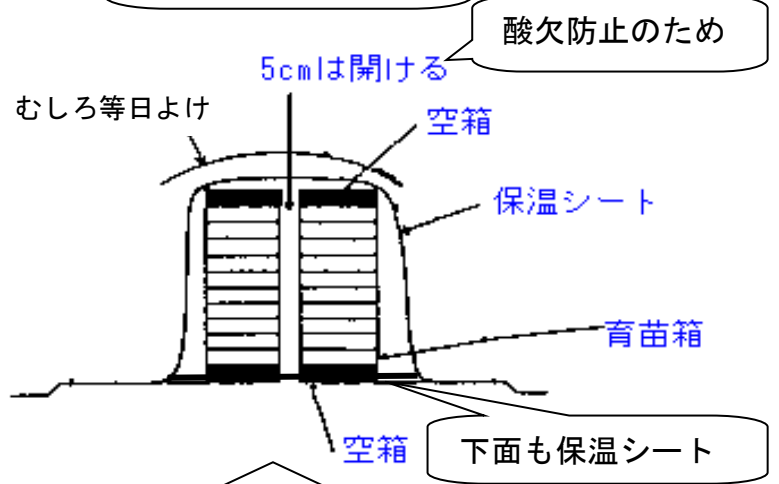


目標とする苗の形



草丈15cm以下 (理想は12～13cm)

積み重ね育苗の方法



・発芽を早め、均一にするには段積みが望ましい。
 保温用のシート(ビニールなど)でくるみ保温します。
 内部の温度が30℃以上にならないように注意する。

8 苗立枯病対策

主な症状	病原菌	使用する農薬			
		エースM粉剤	液剤 タチガレン	水和剤 ダコレート	1ダコニール
		6~8g/箱	500~1000倍 0.5 μ l/箱	400~600倍 0.5 μ l/箱	500~1000倍 0.5 μ l/箱
		は種前 1回	は種時及び発芽後 2回以内	は種時~緑化期 (播種14日後まで) 2回以内	は種時~緑化期 (播種14日後まで) 2回以内
<ul style="list-style-type: none"> 根の地際部や葉鞘が褐変 もみを中心に白~淡紅色のカビ 	フザリウム菌	○	○	○	
<ul style="list-style-type: none"> 根が水浸状に淡褐変 急激な萎凋枯死 症状が坪枯れ状に発生 	ピシウム菌	○	○		
<ul style="list-style-type: none"> 出芽時に床土表面に白色のカビ 出芽不良や根の発育不良 	リゾープス菌			○	○
<ul style="list-style-type: none"> 葉の黄化が著しい 床土表面やもみに白色のカビの塊がみられ、後に青緑色の胞子の塊となる 	トリコデルマ菌			○	

※農薬は使用上の注意（ラベル）をよく読んで適正に使用しましょう。

9 田植え適期のめやすと植え付け株数

（田植え適期）

（植付株数）

山間地	あきほなみ	6月中旬
	ヒノヒカリ	
平坦地	あきほなみ	6月下旬
	ヒノヒカリ	

- ・ヒノヒカリ 70株
- ・あきほなみ 60株

☆適期の植え付けに努めましょう！

10 令和2年度水稲箱施薬剤の一覧表

令和2年3月現在

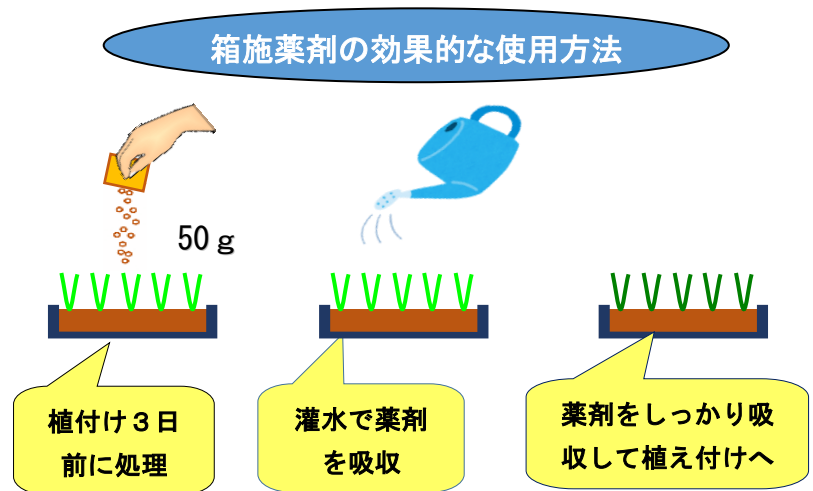
剤名	ウンカ類	コブノメイガ	いもち病	紋枯病	WCS用稲への使用
フェルテラゼクサロン箱粒剤	◎	◎	—	—	○
防人箱粒剤	◎	◎	○	—	○
スクラム箱粒剤	◎	◎	○	○	○

◎効果大 ○効果あり ×効果不足 —登録なし

11 効果的なトビイロウンカ防除の考え方

箱施薬剤の効果的な使用方法

- 適期に田植えを行い、早植はしないようにしましょう。田植えが早くなるほど、トビイロウンカ飛来の危険性が高まるとともに、箱施薬の残効が早く切れてしまいます。(梅雨が明けるまではトビイロウンカが飛来する可能性があります)
- 箱施薬を散布するときは、苗箱によって薬量にばらつきがないよう、一箱当たりの薬量(50g)を必ず施用しましょう。一箱当たりの薬量が基準量より少ないとトビイロウンカに対する残効が短くなります。
- 育苗箱を田植機に乗せる時などに箱施薬が苗箱からこぼれないよう、箱施薬を施用した後は、必ずかん水を行いましょ。箱施薬は田植え1~3日前に施すことで効果が高まります。
- トビイロウンカの防除は、第一世代幼虫の防除が重要です。発生予察情報に基づき、適期防除を行いましょ。8月下旬以降の防除では、株元に生息しているトビイロウンカに薬剤が届くように丁寧に防除しましょ。防除時期は地域の防除情報(水稲管理連絡等)を活用下さい。



※上記10の箱施薬3剤は播種同時処理が可能となっています。